

保育の現場から

言葉がけの難しさ

藤 樫 啓 太

「早くしなさい！」

保育における難しさはたくさんあり、保育者の援助についても正解がないという部分こそ、保育のおもしろい部分だと思っています。

その中でも、最近特に難しさを感じているのは、「子どもに対する言葉がけ」です。子どもが保育者の何気ない一言まで記憶していたときには驚いてしまいますが、保育中における言葉遣い、その中でも直接子どもにかける言葉には、配慮をしていかなければならない必要性を感じています。

なぜ、急に言葉がけについて気になり始めたのかというところ、それは園内研修の際に職員間で「言葉がけ」をテーマに話し合ったことがきっかけでした。

まず普段私が、保育中にどのような言葉を発することが多いのか、ということについて振り返ってみますと、「早くしなさい。あと〇〇秒で始めるよ」「〇〇しないと〇〇にするよ」といった「脅し」ともいえる内容が多いということに気がつきました。おそらく、子どもを自分の思いどおりに動かそうという気持ちが強く、知らず知らずのうちにこのような言葉をかけてしまっていたのだと反省するきっかけとなりました。園

内研修は、その後、より良い言葉がけとはどのようなものか、という内容に進んでいきました。

保育における、子どもへの厳しさとは

私たち保育者は、言われたとおりにだけ活動する子どもではなく、前向きに活動できる子どもを育てようとしています。子どもに対して一方的で、何の意図をもたない厳しい言葉をかけることによって、子どもは保育者に言われたとおりに活動します。なぜなら、やらないと先生に叱られるという恐怖心をもつからだと思いますが、それでは保育者からの一方的で強制的な活動となってしまうからでしょう。

保育においては、子どもに厳しさを与える場面も必要だと思いますが、それが保育者の単なる感情の発散であってはならないと思います。保育者は、日ごろの子どもの様子を見て取り、一人ひとりの子どもの内面をとらえた上で、必要な厳しさをもっていくことが大

切だと思えます。私の園の教育方針の一つに「自発的な子どもを育てる」ということがあります。これはいかなる場面においても、誰に言われるまでもなく、「自らが進んで活動する子どもを育てる」ということです。

このような自発的な子どもを育てていくためには、どのような援助が望ましいのか？ ということは日々の課題ですが、援助の中で「もっと頑張れ！」というような言葉がけは、保育者の子どもに対する愛情や期待の表れの一つではあります。

子どもは素直であるが故に、保育者に言われたことは、多少難しくてもある程度のことではできてしまうのです。しかし、保育者は「できた」という結果だけを、保育の評価としていては不足だと思えます。何か「できる」ということよりも、子どもがどのように活動に取り組めたのか？ 活動の過程においてどのような成長があったのか？ という姿に対して、子ども

の成長・保育の価値を見いだしていくことが大切だと思えます。

瞬間的な言葉がけの難しさ

それでは、子どもが自発的に活動していくためには、どのような言葉がけをすることがより良い援助といえるのでしょうか？

日ごろの保育の出来事から考えてみたいと思います。私が担任をする五歳児クラスでは、「絵本先生」という活動を行っています。これは、子どもが自分の好きな絵本を幼稚園に持ってきて、クラスの友達を前にして音読をするという活動で、「文字に触れる」「友達の前で表現する」「聞く側の態度を育てる」などのねらいをもって行っています。

ある日、M子の順番が回ってきて、帰りの会の時間にいよいよ読むこととなりました。保育者用の高いいすに座り、本を手に持って準備をしたものの、なかなか

か声が出てきません。M子が読むのを待っているクラスの子どもたちからは「始めてもいいよ」「頑張つて」などの応援があり、担任としてうれしい気持ちになりながらも、その次のM子への言葉がけに迷い始めました。

M子が勇気を出して読むことができるためには、何と言ったらよいのでしょうか？ 私は「練習してきたとおりに読んでごらん」とだけ声をかけましたが、結局その日は一言も出せずに帰りの時間となりました。

その日の降園時に残ってもらいM子と相談をする時、「家では家族に聞いてもらってバッチリ練習をしてきたんだけど、みんなが見ていると恥ずかしいんだよね」という本心を聞くことができました。

M子の場合、日ごろの様子から考えると、保育者が援助をし過ぎてしまうことよって「一人で絵本を読めた」という達成感が薄れてしまうのではないかという予想もしていました。そのため、今回は助け舟を出

さず、M子が読みやすい状況をつくり、あとは彼女が勇気を出せるまで待とうと決め、様子を見ることにしました。その後、M子は三日連続で発表に挑戦しましたが、いずれも絵本を手に持ち、十五分ほど無言のまま終わりました。

四回目は、本人の希望から少し日を空けて行ったところ、小さい声でしたがついに読むことができました。クラスの子どもたちも毎回温かく見守っており、



友達の頑張る姿をお互いに支えられるようになった、クラスの成長も感じられる出来事でした。このケースで配慮をしたことは、声が出せないM子

をおだてたり、プレッシャーを与えるような過剰な励ましをしないことでした。それよりも、「Mちゃんはいっぱい練習してきたのだから、きつと大丈夫だと思おうよ」と、M子が練習をしてきた取り組みを認めるようにし、積極性もてるようにしたいと考えていました。しかし、M子が絵本を読もうとしても声が出せなかったその瞬間に、どのような言葉をかけたらいいのか、援助に迷ったケースでした。

掃除の時間での言葉がけに悩むことも多いです。クラスのA男は、掃除の時間になっても遊んでいることが多く、掃除の時間が終わると誰にも気づかれないうに自分のクラスにそっと入室することが続いています。私は「みんなが掃除をしているのに、遊んでばかりでズルいんじゃないの?」という言葉がけを繰り返していきましたが、いっこうに掃除に取り組むこともないA男への言葉がけに迷いました。

あるとき、自分がA男にかけている言葉は「掃除を

やりなさい」という「強制的な言葉」ばかりであることに気づき、これではいけないと反省をしました。A男が進んで掃除に取り組めるようになるためには、どのように働きかけたらよいのかということに悩んでいたのですが、まずはA男との信頼関係をつくることや、私自身が彼のことをもっと理解していかなければならない必要性を感じました。

それからというもの、私はA男に対して「掃除をしなさい」という言葉がけをせずに、それよりも彼と一緒に遊び、スキンシップをとりながら、まずはA男と心を通わせられるように心がけました。

すると、しだいにA男から「先生、一緒にお弁当を食べよう」など、私にも話しかけてくるようになり、掃除をする私の姿を見ながら、いつしか自分から掃除に取り組むようになっていきました。そういうときには、私もA男のその取り組みを見逃さないように声をかけ、認めるようにも心がけました。

すべての言葉がけは、 子どもの実態をとらえた上で

言葉がけというのは大切な援助の一つですから、何の意図もたない言葉ではなく、その子を伸ばすための内容の言葉であることが大切だと思います。もちろん、子どもの様子はそれぞれ違うわけですから、一人ひとりに対しての言葉がけも異なっていくはずですが、すべての子どもに対して同じ言葉がけをすることが、必ずしも子どもの成長につながるとはいえません。そのため、言葉をかける前の保育者の役割として、まずは子どもを理解しておかなければならないということがいえると思います。

日々の記録や保護者からの話、ほかの保育者の目にとらえた姿などから個々の子どもの実態を考察し、自分なりの見解でその子を理解していきます。そして、その子の成長している面や今後の課題などについて、

考察を深めていきます。この継続的な作業の積み重ねこそ、幼児を理解することにつながり、意図的でよい良い言葉がけへの第一歩になるのではないでしょう。

また、「自分が子どもをどのようにとらえているか？」ということに加えて、「自分は子どもにどのようにとらえられているのか？」という逆のことも意識するようになりました。言葉がけにおいて、子どもの実態をとらえることは大切だと述べてきましたが、それに加えて、子どもから見た「自分」はどのように映っているのだろうか？ ということも意識する必要があります。があると思います。

なぜなら、保育者が自分のかけた言葉について、子どもがどのように受け止め、感じているのかということとを省みること大切だと思うからです。このことは、言葉がけに限らず、保育者の言動すべてにおいても当てはまることではないでしょうか？

子どもから「先生は、僕の話聞いてくれないんだもん」「先生はいつも怒っていない？」などと言われたことがあり、ショックを受けたことがあります。自分の保育におごることなく、常に謙虚な姿勢を忘れることなく保育を行っていくためには、自分が子どもにどのように見られているのか？ ということを意識しておく必要があると思います。

今回の執筆にあたり、「保育者の言葉がけ」ということをテーマに、自分自身の言葉がけについても振り返ることができました。どのような言葉がけがふさわしいのかということを考え、子どもを伸ばすことができるような言葉がけや、子どもが自発的に活動できるように言葉がけを心がけていきたいと思えます。

また、子どもの言葉遣いを指摘する前に、まずは自分が子どものモデルとして恥ずかしくない言葉遣いを心がけていきたいとも思っています。

(玉川学園幼稚部 教諭)